

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育)／松井 敦典

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

従来、運動方法学Ⅳ(水泳)において、授業課題として附属学校での実技指導補助と、それらの実践レポート作成を課してきた。すなわち、本学の9月における教育実習では実現不可能な水泳指導の機会を、1,2年生のうちに附属中学校で得ることができており、受講生にとって貴重な実践の場である。この方法をさらに押し進め、他の附属学校や公立学校にも連携を働きかけ、指導の場・機会を拡大させるとともに、その連携方法等についても改善していきたい。

2. 点検・評価

「運動方法学Ⅳ(水泳)」は隔年開講であるが故に、連携している附属小・中学校側にもそれなりの不便を強いている面がある。しかし、双方ともその利点を理解し、今後も協調関係を継続していく予定である。元来水泳は小・中学校の必修の内容であるが、本学学部生にはその経験に乏しく、十分な実技能力や知的理解が得られていない場合が多い。「健康スポーツ科学Ⅰ」や「初等体育Ⅰ」等の関連授業を含めて、それらを補い、さらに本学卒業生に相応しい教育実践力を身につけた教員を養成すべく努力している。今後も学校水泳や水泳教育に必要な教員としての資質を高めるべく、最善の努力を継続していきたい。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教科専門を指導する立場から、教員として必要な教科の力を確実に身につけるよう指導方法を精査する。そのなかで学生が本学の教育資源を活用できるよう、学生の環境整備・構築を促し、それを有効利用できるよう指導する。学生の活動エリアにおけるIT環境、学生の情報リテラシー、研究室や講座としての支援体制等に留意しながら、学生が教員としての力が涵養できるよう、支援する。

2. 点検・評価

一教員として、またコースとして、体育・スポーツの教育活動におけるICTの活用を積極的に創出して来た。授業課題や論文作成の際に、その成果が反映されている。コースのウェブサイトを整備し、授業の成果や卒論・修論発表会の資料をオンラインで提供する等に活用されている。学生らはこのような環境の中で学び育つことにより、それ相当の蓄積を得ることができるであろう。

また、懸案の心のケアを必要とする学生らは、指導教員との連携のもと、適切な対応ができた。今後もこのような事例を想定しつつ、必要な対応がとれるよう、注意深く学生の支援にあたりたい。

II-2. 研究

1. 目標・計画

国際共同研究“Can Swim? Project”をすすめ、国際的な見地のもとに水泳の意義や価値を再検討し、学校教育や社会教育に活かす授業内容や教材づくりをすすめる。また、溺水予防・事故予防は本学がすすめる予防教育の概念とも重なるので、それに関する実践例も模索していきたい。

従来から取り組んできた、日本スポーツ科学センターや徳島県体育協会との連携をさらに押し進め、競技スポーツの技術分析の方法とその実践例を増やし、競技力向上のための支援方法として確立させる。

2. 点検・評価

国際学会World Conference on Drowning Prevention 2011(DaNang, Vietnam,10-13 May, 2011)にて口頭発表“History of Swimming Education at School in Japan which Influenced Japanese Swimming Ability”および共同研究“Real and Perceived Swimming Ability, Perceptions of Drowning Risk among Japanese University Students”を行い、国内外の大学生の水泳能力の実態を明らかにした。また、日本語版の作成に関わった“Open Water Guideline”が公開された。
(<http://www.seattlechildrens.org/pdf/open-water-guidelines-japanese.pdf>)

また、2010年日本水泳・水中運動学会年次大会第14回日本水泳科学研究会(11月20～21日、新潟医療福祉大学)にて2県の協同研究発表「学校水泳の実施状況調査と外部委託に関する一考察」、「小学校4年生における「浮く・泳ぐ運動」の実践報告-安心・安全水泳の視点から-」を行った。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

保健体育コースの教官定員の削減に対応するため、少人数でも機能できるコース運営システム作りのために協力する。従来から行って来た授業や講座業務のIT化をさらに押し進め、事務手続等の簡素化に貢献する。

各種委員等、与えられた任務及び責務を全うする。

体育施設の保守・点検に協力する。学生生活支援チーム等事務組織と連携しながら、授業や課外活動等が円滑に行われる環境整備に留意する。

2. 点検・評価

中間報告

コース及び教育部で割り当てられた委員(予算・財務管理委員会、大学院教務委員会、国際交流委員会)の職務を全うしている。また、衛生委員会委員として、学内の労働環境整備の観点から、施設設備の安全性や機能性の確保に努めている。体育施設に関しては特にプールと艇庫まわりの維持管理を担当し、授業や各種教育活動の安全な実施のための環境づくりに貢献している。学生課学生生活支援チームとの協力の下、コースロープの更新が実現された。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属学校における教育支援(授業補助、LFT担当等)、教育アドバイザー、徳島市学校体育活性化校内研修助成事業、徳島県文化スポーツ立県局県民スポーツ課、徳島県教育委員会体育健康課、徳島県体育協会(スポーツ医科学委員会、競技力向上委員会、および各種セミナー)、徳島県水泳連盟等、関係する各組織と連携し、社会貢献できる各種行事に積極的に参加する。またそのことにより、鳴門教育大学をアピールする。

その際に本学大学院の紹介を実施し、受験生の確保と入学者の増員を図る。

2. 点検・評価

教育アドバイザー1件、徳島市学校体育活性化校内研修助成事業1件を担当した。徳島育ち競技力向上プロジェクト委員(徳島県文化スポーツ立県局県民スポーツ課)、競技力向上スポーツ指定校ステップアップ事業選考委員長、水泳指導者講習会講師(徳島県教育委員会体育健康課)、スポーツ科学委員会委員、競技力向上委員会委員、国民体育大会徳島県選手団本部役員(徳島県体育協会)、徳島県水泳連盟常務理事、水球審判審査委員(日本水泳連盟)等、関係する各組織の役職を果たしている。またそのことにより、所属する鳴門教育大学をアピールしている。

学内では留学生向けのトレーニング室利用マニュアルを作成し、利用講習会を担当(2回)した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

国際共同研究“Can Swim? Project”の日本国内拠点の一つとして、また、水上安全に関する国際規格“Open Water Guideline”の日本国内拠点として鳴門教育大学を国際的にアピールしている。また、学校水泳に関する専門家として、毎日放送からテレビ取材を受ける等、メディアを通じたアピールを行っている。徳島県・徳島県体育協会らとのスポーツ行政やスポーツ科学を通じた関係などから、鳴門渦潮高校との高大連携に関する基盤づくりに関わっている。さらに、徳島県教育委員会の競技力向上スポーツ指定校の選考委員長およびその評価委員を務め、徳島県内のスポーツ競技力向上と組織運営に貢献し、体育スポーツ活動における鳴門教育大学の貢献をアピールしている。